

---

# 魔法少女リリカルなのは～転生～

akgka

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

魔法少女リリカルなのは 転生

### 【Nコード】

N7590Y

### 【作者名】

akgka

### 【あらすじ】

ある日転生した少年、その世界は、なのはの世界。

そんな少年の物語です。駄目駄目な作者ですが、応援してください。そして、ネタをください。お願いします。

思い、願い、絆、友情があるかもしれない（前書き）

この作品は、未計画で始まり、ネタも無い状態で始まり、そして作者にとって初めての小説、二次制作です。なので至らぬ所もあると思いますが、どうかみなさま暖かい目で見守ってください。そして、ネタもください。お願いします。

## 思い、願い、絆、友情があるかもしれない

いつもと同じ朝、だが登校時にそれは起きた。「あなたには転生してもらいます。」そんな言葉とともに僕の意識は飛んだ。目を覚ますとそこは白い世界にもなくただ白い世界、そこに一人の女性がいた。彼女はとても美しかった、つい見とれてしまうほどに。僕は直感的に思った、「彼女は、神だ。」と、それと同じくこうも思った「彼女には、逆らえない。」と、本能が叫んでいた、従え！と、すると「あなたには転生してもらいます。」その声で僕は今の現状を改めて見直した。・・・・・・・・

初です、きつと駄文ですがよろしければ読んでください。あと、投稿するのに時間がかかると思います。では、これからよろしくお願ひします。

## 1話 始まりの日(前書き)

初めまして、a k g k aです。

今回が初投稿になります。

超初心者です。

文才など欠片もありません。

こんな僕ですが、暖かく見守っていただけると嬉しいです。

そして、ネタをくれるともっと嬉しいです。

何度も言いますが、これは未計画でネタが無い状態です。

助けて！！ けどがんばります。

ではどうぞ

## 1話 始まりの日

その日すべてが始まった。

「・・・zzzz」

その日は、いつもと何の変りもない朝だった。

「ピリリリリリリ」

目覚まし時計が部屋に鳴り響く、

「うーん、んっ」

目覚まし時計を止めて起きる、

「はあく、よく寝た」

大きなあくびをしながら伸びる、

そのまま洗面所へ行き顔を洗い歯を磨く、

朝食を軽くすませ、

征服に着替えて学校へと向かう。

「あれ、いつもこの時間帯結構の人がいると思ったんだけどな？」

いつもと違うのはそれぐらいだ。

「まっ、いいか俺には関係無いしな」

信号が青になり歩き出す、

キイイイイイイイイイ

近くの角からトラックがすごい速さで突っ込んでくる！

「お、おい、ちょ、待っ」

そこで俺の意識が切れた。

「んっ、んっ、ここは、どこだ？」

そこは一面真っ白な世界、

そこには白、白、白、人？がいた、

白い世界の中心に一人だけ人がいた、

その人は、見とれてしまうほど美しい女性だった。

そして俺は、直感した、この人は、神なのだと、

「あ、あの、すみません、少しよろしいでしょうか？」

神？が聞いてくる、

「え、あ、はい、全然構いませんよ」

俺は、なるべく丁寧に返した。

「あの、まず最初に言っておくことは、あなたは死にました、そして、新たな生を受けて転生してもらいます」

「はい！？」

俺は知っている、これは、死んで転生してチートな力を得てどこかアニメなどの世界に行くあれだ！

初めに言っておく、俺は、チートとアニメが大好きだ！

「えっと、転生してもらう理由ですが、あなたの運命を間違えて設定してしまいました、すごく不幸になってしまっただけです、その、一応直さなければならぬんですが、えっと、本音を言つとですね、直すのがめんどくさくつてだっただら死んでもらって転生させちゃえ、ということなんです」

「あつそ、まあ、なんでもいいや」

「えっ、いいんですか」

「ああ、こっちの条件を呑むんだったらな」



「はははっ、これで、チートの力がこの手にWWW

「は、はい、それでその条件は？」

続く

## 1話 始まりの日(後書き)

はい、どうも、a a k k gです。

はははまだ名前も出なかったですね。

がんばって書いていくのでよろしくお願いします。

けど今テスト期間中でバリバリテストやってるんで、

次の投稿は何時になるやら、

な、状況です。

なるべく早くに投稿します。

では

## 2話 転生！（前書き）

どうも、a k g k aです。

まず、アビス様感想ありがとうございました。

そして、この作品が厨二って言う事に対して一言、

それは、自分+周りの人をモデルに書いているからです！

だから、しょうがない事なんです。

では、作品の方へどうぞ

## 2話 転生！

〈前回〉

「ああ、こっちの条件を呑むんだったらな」

「は、はい、それでその条件は？」

俺は、あっちの世界に何の未練もなかった、  
いつもなにも変わらないそんな日々とうんざりしていた。

今考えるとその所為かも知れない、

アニメ、ゲーム、小説、

毎日新しい事が起り、

退屈のしない、

そんな事に憧れていたのかもしれない。

〈続き〉

俺は、主人公になるんだ！

春原にはならない！

岡崎になるんだ！

「まず、条件を言う前に聞いておきたい事がある」

「はい、なんでしょう」

「俺が転生される世界と場所、その時の年齢、条件無しにもらえるものだ」

まずこれを聞いておかないと話にならないと思う。

「じゃあまず世界と場所から、世界は、なのはの世界です。場所は、ランダムです」

「ランダム、ミッドか地球かぐらい分かんないの？」

「場合によります、無印からなら地球、Strikersならミッドかもしれないです」

「じゃあ無印で地球からで」

「分かりました、では歳ですが、0歳からです」

うっそーん

「マジで？」

「マジです」

「0からって、めんど」

「じゃあこうしましょう、3歳になったら力と記憶を付ける、ってのはどうでしょう」

「あ、それいいな！ じゃあそれで」

「はい、じゃあ後こちらからのプレゼントは、リンカーコアとデバイスで」

「分かった、けどデバイスなんてどうするんだ、生まれたとき持ってるんじゃないぞ」

「それはですね、どっかに隠しておいて記憶が戻るときに一緒に在りかが分かる、みたいので」

「まあ、それが妥当だな」

ふう、後はこっちからの条件だけだ。

「それで、そちらの条件の方は？」

「うーん、ちょっとタイム、考えるから」

「分かりました」

どうしよう、条件とか言っておいて何も考えてない。

うーん

（30分後）

「よし、これでいいっ！」

「あれ、もう決まっちゃったんですか？」

その時神は、どこから出したのかこたつに入っていた、上にはみかん、お茶、せんべいそれにテレビが置いてある、

「ちようど温まってきたんですが、それに今良い所なんですけど」

テレビには、ま〇かにキュウベ〇が、

「僕と契約して魔法しょ」言わせねえーよ」

俺はとつさにケータイに手を伸ばし、ファイルを開き動画を流した、こんな事もあるつかと〇が家のツッコミを保存しておいて良かった。

「しょうがないですね」

気がつくところたつなどが無くなっていて神だけになった。

「ふう、じゃあ条件だが」

「じようじようじようじようじよう」

「はい、分かりました、これだけでいいんですね」

「ああ、これだけでいい」

「じゃあ、行ってらっしゃいませ」

「ああ、行ってくる」

リ〇カ〇マジカル始まります。

続く



## 2話 転生！（後書き）

はーい、どうも、 a k g k a です。

主人公が出した条件については今の所秘密です。

ヒミツなんです、単に考えてなかった訳じゃないんです。

後、名前も何も出てませんが、

後で主人公紹介みたいなものする予定なんでそちらでお願いします。

では、また次回も見てくださいねえ！

じゃんけん、ポン？

うふふふふ

## 主人公紹介（前書き）

間違えて2回全消し・・・

めっちゃ簡単になってしまいました。

すみません

それと、アビス様いつも感想ありがとうございます。  
これからもがんばっていきます！

では、ごうござい



見た目、小さいアサシン「Fate/stay night」のアサシン「そのまんま、成長したらそのままアサシンに「姿だけ」なるかも？」

神からの能力など

1・能力 不明

2・デバイス 不明

3・リンカーコア AAAA+?

などなど

これからの成長に期待！

## 主人公紹介（後書き）

はい、どうも、a k g k a びす。

みなさん、すいません。

もう2回の失敗でもうやる気が出ませんでした。

では、じゃあ、

く〜んじ〜ん

うひゃ（おー）

### 3話 新たな生活（前書き）

やっとテスト終わった！

けど、テストが終わると部活が・・・

がんばります。

後前回すいませんでした。

なんかもう書く気になれませんでした。

今回からがんばっていきます！

では、

### 3話 新たな生活

そこには二人の男がいた。

一人は落ち着かなそうに貧乏揺すりをしながら座っている。

ここは、病院の廊下のベンチ。

ここで新たな命が生まれようとしている。

「大丈夫だ、大丈夫だから落ちつけ」

もう一人の男が言う、彼の父だ、

小次郎にとっての祖父だ。

「ですが、おとうさん」

「もう少し冷静になれ、何も心配はいらん、そう先生達も言っておったじゃろっ」

「でも、さつきから、ずっと嫌な予感がするんです」

彼の嫌な予感は良く当たる、実際彼の嫌な予感の後なにかが起る。

「大丈夫だ、きっと、信じよう、それしか出来ないのだから」

祖父も前々から嫌な予感はしていた、そして良く夢に出てくるようになった、

2年前に亡くなった祖母が、

もしかしたらと思ってはいたが、

まさか、祖父は心の中で思った、

(なあ、お前、頼む、あいつの妻を連れていかないでくれ、頼む)

そこに、

ウィーン

ドアが開いた、

「大変です！赤ちゃんの方は無事出産されたのですが奥様の容体が急変してしまい」

「そ、そんな」

二人の予感が的中した、彼の妻は、病にかかっていた、  
だが、そこに無理をしてまで出産したため急変してしまったのだろ  
う。

「今から手術に入ります！」

そして、ナースは戻っていく、

「おい、亜美！、亜美！亜美！！！！」



ウィーン

ドアが閉まる。

「くっ、ちくしょう！、俺が、あいつの事を、止めていけば！」

「落ちつけ、くっ、信じるしかないんだ」

彼はそこに崩れ落ちた。

そして、地面を思いっきり殴っていた。

数時間後

ウィーン

ドアが開きドクターが出てくる、

「先生！亜美は！亜美はどうなんですか！！」

彼は、ドクターに飛びつくいきよいで聞いた、

だが、ドクターは、何も言わなかった。

そして首を、横に振った。

「うっ、うわあああああああああああああああああああああ」

そこに、彼は、泣き崩れた。

0歳ここに佐々木小次郎が生まれた。

アミ

イチロウ

彼の母、佐々木亜美は、小次郎を生み他界した、彼の父、佐々木一郎、彼は、あまりのショックの大きさに、自殺した。

サブロウ

それ以来小次郎は、祖父の、佐々木喜三郎に育てられた。

小次郎の祖父は、昔、この世で一番強い侍として恐れられた、そんな事もあって祖父は、道場を開いている、そこで、よく幼い小次郎と遊んでいた。

その時から、よく木刀など竹刀を触ったり、持ったりしていた、そこで道場に入れてみたら覚えも早くすぐにその中で一番の強さになった。

小次郎3歳の誕生日

「ほら、小次郎、ケーキだぞ」

そう言いながら、喜三郎がケーキを持ってくる。

「わぁー、すげーいい」

そのケーキは、すごく立派だった、3個の炎がゆらゆら揺れている。

「消していい?」

「ああ、いいぞ」

そう聞いてから、息を吹きかけ炎を消す。

「おお」

パチパチパチパチ

喜三郎が拍手する。

そして、喜三郎が電気をつける、すると、小次郎が倒れていた！

「おい！小次郎どうした！しっかりしろ！小次郎！！」

そこで、僕の意識は切れた。

続く

### 3話 新たな生活（後書き）

はい、どうも、a k g k a デス。

いつも1時間ぐらいで書いてるんでやっぱりそんなに量がありませんね、けど、ちりも積もれば山となる！コツコツやっていききたいと思います。

感想などお待ちしています。

では、

#### 4話 出会い（前書き）

どうも、投稿が遅れてしまいました、すみません。

なんか、テストや提出物や大会やらで結構忙しかった・・・

まあ、続きはあとがきで、

では、どうぞ。

## 4話 出会い

「うーん・・・あれ、ここは？」

そこは真つ白い世界、『以下略』

「あなたは神、ですか？」

「はい、あなたを此処へ・・・めんどいから少し目を閉じて」

「えっ、は、はい」

神が手を頭にのせる、そして目を閉じる、

「そら、いっくよ〜」

手が光りだし、頭の中になにかの記憶が流れ込んでくるようだ。

やがて光も終わり手をどかす、そして少しの沈黙。

その間に記憶の整理をする、この記憶は、俺の記憶、

転生、条件、神、ま〇か、キュウベ〇、

あれ、最後の方は違う気が、まあいいか。

「どうです、気分の方は？」

「ああ、絶好調だ」

「やっつと復活！」

「俺、参上！」

「じゃあ、早速だが、例のものを」

「はい、ただいま」

「ふおふおふお、おぬしも悪よのっ」

「はい？記憶のせいでおかしくなっていましたか？」

「いや、すまん、忘れてくれ」

記憶が戻ってきたせいでハイテンションになってしまっていたようだ、

「じゃあ例の、条件のことですが、まず一つ目の身体能力アップですがこちらで生まれたときより少しずつ上げておきました、二つ目の魔力+魔法ですが、EXのミッド、ベルカ、ドラクエ、ネギまで、三つ目、レアスキルは、アイテムクリエイトにナイトウィザードの<sup>かぐや</sup>月衣で、デバイスの場所は、ここです、ここと言っても分から無いでしょうから直接さつきついでにデータを入れときました、ふう、こんなもんですかね」

「あ、ああ、良いと思う」

神がこんなにしゃべるとは思ってもみなかった、人はみかけによらないとはこのことを言うのか。

「じゃあこんな感じでじゃあさようなら〜」

「えっ、なんでそんなあっさりなの！もうちょいなんかあるでしょ」

「じゃあなに、早くしてくんない、こっちは急いでんの！シャ○？が始まるでしょうが！」

「またアニメかい！、今度は、灼眼○シャ○かよ！」

「そうよ、悪い？、だからじゃあねえ〜、はい、強制転移！」

「お、おい、ちょっとま……」

シーーーーーー

小次郎が目覚めたのは、二日後だったらしい。

続く



#### 4話 出会い（後書き）

ども、また消えました、1回・・・

どれぐらい短くなったんでしょうWW

ESCボタンの馬鹿やろう

では、

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7590y/>

---

魔法少女リリカルなのは～転生～

2011年12月3日00時47分発行